

# 2018年は 荒川上流部改修から100年

これまでの改修で、地域の発展に大きく貢献。  
次の100年に向けて、さらなる治水安全度の向上を図っていきます。

## 明治政府を動かした大洪水

～埼玉県内の堤防決壊314箇所、死傷者401名～

住宅の全半壊・破損・流出18,147戸、非住宅10,547戸、農産物の損害は2,400万円(現在の資産価値で約1,000億円)などの甚大な被害となりました。かつてない大洪水に、明治政府は「臨時治水調査会」を設け、抜本的な治水計画にのり出しました。荒川は、国が直轄事業として改修すべき河川に採択され、「荒川改修計画」が立てられました。

明治43年の洪水 浸水被害の様子

(上)七条二船渡放つ女ト査査町戸井島 (水災大東京月八)

明治43年の洪水 堤防決壊の光景

荒川放水路事業概略図

荒川上流改修工事平面図  
荒川上流改修工事平面図

## 現在の荒川の骨格を築いた大土木工事

～連続堤防の工事や蛇行した流路の直線化等が行われた～

主な工事として、蛇行した低水路の直線化、広い川幅を活かした連続的な堤防の整備、河川敷の遊水効果を高める横堤の整備、入間川等の合流部の改良が行われました。

二瀬ダム

機械動力による施工

朝霞水門

人力による施工

河道の直線化

荒川第一調節池

## 洪水を防ぐ荒川第一調節池

～洪水調節や利水補給といった重要な役割を担う施設～

荒川第一調節池は、洪水時は一時的に水を貯めて、下流への流量を減らす洪水調節池であると同時に、彩湖(荒川貯水池)は、都市用水となる水を貯めて温水時に補給する利水施設でもあります。

# 荒川上流部改修から100年 首都圏の発展に大きく貢献



## 荒川上流部改修100周年(埼玉県・東京都)

荒川上流部改修から  
**100**年  
1918-2018

- 荒川流域ではたびたび浸水被害が発生しており、江戸時代の頃より大困堤築造や瀬替えなど治水事業がおこなわれてきた
- 明治後半から大正初期にかけて相次いで大洪水に見舞われたことにより、改修計画早期着手を願う声が高まり、その結果、帝国議会で大正7年より荒川上流部改修計画を着工することとなった
- その着工より100年、堤防改築や横堤新築、ダム・遊水池整備等の様々な事業を行うことで浸水被害を大きく減少させてきている

### 首都圏でたびたび浸水被害が発生 大正7年より荒川上流部改修が本格スタート



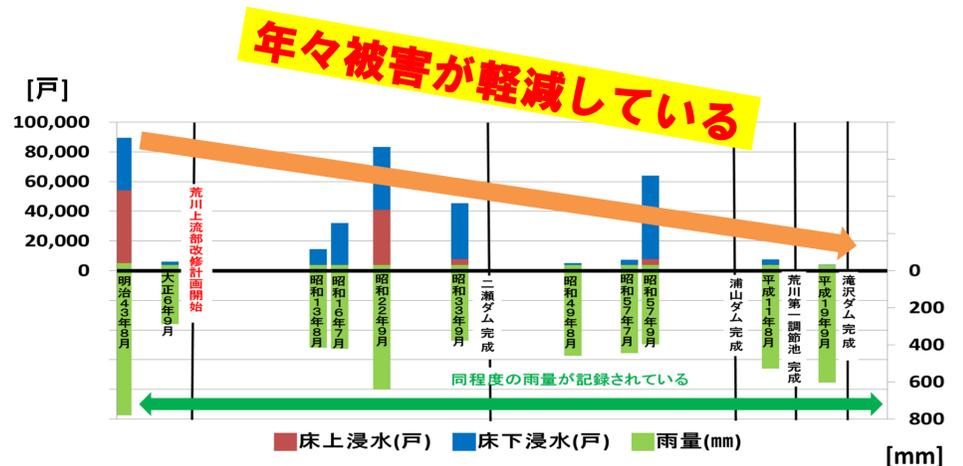
荒川改修工事(現 埼玉県さいたま市馬宮付近)  
掘削工事と併せて築堤が行われ、工事には蒸気機関車や馬車・トロツコを使用している様子が見える。写真は、大正10年頃。



荒川改修工事(現 埼玉県さいたま市馬宮付近)  
蒸気機関車による土運搬の様子。土の運搬には3m3土運車が用いられ20~23台編成で運行された。

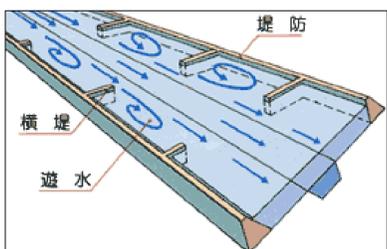
### 浸水被害が大幅に減少し、 人口増加に大きく貢献

#### 埼玉県部における洪水雨量と全壊流出浸水戸数の関係



#### 荒川上流部の100年間の治水事業

##### ■ 荒川上流部改修計画での治水事業 (1918年~1954年)



**横堤の築堤**  
(川幅の広い河川敷を利用し、遊水効果を高めている)



**入間川合流点の瀬替え**  
(洪水時に荒川本川の水が入間川に逆流していたため、その影響の低減を図っている)

##### ■ 荒川上流部改修計画以後の治水事業 (1954年~)



二瀬ダム

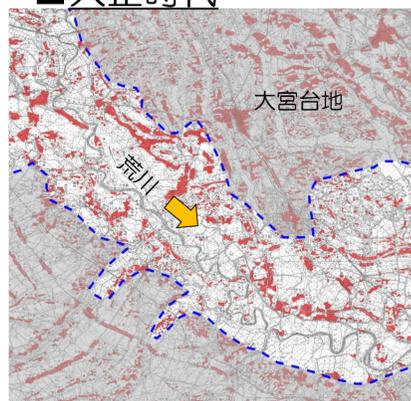


荒川第一調節池

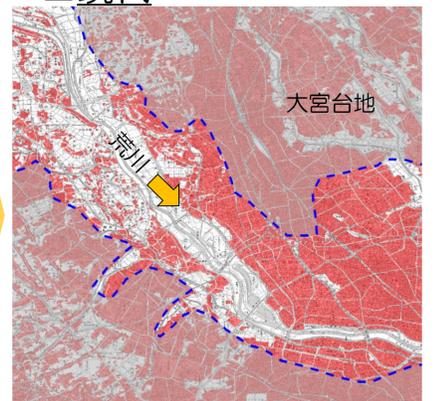
#### 荒川低地の市街化の進展状況

**荒川改修による浸水被害低減により、  
人口増加や経済発展に大きく貢献しています。**

##### ■ 大正時代



##### ■ 現代



市街化が  
進展

※雨量については、流域内の各観測所における総雨量の最大値とし、浸水被害については、東京都及び埼玉県全域の被害を示す

※雨量については、荒川上流域に位置する観測所の総雨量の最も高い地点の雨量を示す

出典: 「埼玉県気象百年」「水害統計調査」